

名古屋港湾事務所におけるSDGsの取り組みについて



私ども名古屋港湾事務所では、以下の取り組みをはじめとする各種施策を通じて、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、名古屋港の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



名古屋港のパワーアップ



名古屋港にはコンテナ取扱貨物量の増加や船舶の大型化に伴い、既存のコンテナターミナルの能力不足やモータープールの分散による非効率な荷役などの問題があります。名古屋港湾事務所では、名古屋港が抱えるこのような問題を解消するために様々な事業を実施しています。

具体的には、コンテナ取扱貨物量の増加や船舶の大型化に対応した新たな岸壁の整備や既存岸壁の改良、物流の効率化による国際競争力の維持・強化を図ることを目的とした港全体の再編を行っています。また、大規模地震災害に備え、安定的な物流機能を確保するために耐震強化岸壁として整備しています。大型船舶が安全に入出港できるよう、名古屋港湾事務所が所有している浚渫兼油回収船『清龍丸』にて海底土砂の撤去を行っています。



コンテナ船の荷役の様子



清龍丸



ゴミ回収で海をキレイに



海面に浮遊するゴミや流木は航行船舶の支障となります。また、船舶の衝突事故等による大量の油流出は、海洋環境や生態系に大きな影響を与えます。

名古屋港湾事務所が所有している海洋環境整備船「白龍」は、伊勢湾内の海洋ゴミや油の回収作業を行うとともに、環境保全・再生のための水質調査を実施しています。



白龍

【2021年度以降の目標】

海洋ゴミののべ回収量: 2021年度180m³ → 2030年度2,260m³



名古屋港を見て学ぼう!



名古屋港湾事務所が行っている工事や名古屋港の果たす役割、社会資本整備の重要性等について、広く知っていただくために、見学会を行っています。見学会は、主に小学生以上の方へ向けた教育や研修を対象としており、名古屋港の概要説明と船舶に乗船して名古屋港の港内見学を行っています。

名古屋港について、より多くの方々に理解を深めてもらえるよう、名古屋港湾事務所では今後も見学会を開催します。



見学会の様子

【2021年度以降の目標】

のべ見学者数: 2021年度46人 → 2030年度2,046人